

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600821	事業の開始年月日	平成16年10月1日	
		指定年月日	平成16年10月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ横浜いずみ			
所在地	(245-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町5246-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年10月6日	評価結果 市町村受理日	平成22年11月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 閑静な住宅地の中に有りながら、畑も点在し、のどかでどこか懐かしい雰囲気です。ホーム敷地内にも菜園があり芋掘りや野菜の収穫、花の観賞など庭も充分楽しめる環境に有ります。 ・ 利用者様が楽しくホームでの生活が送れる様に買い物、散歩、外気浴等の機会を作り、年2回予定の遠足は皆楽しみにしています。また、ボランティアの方々による書道教室、爪マニキュア等の催事も行っています。 ・ 地域交流は、運営推進会議を通じて地域コミュニティーに参加することより関係を広げていきたいと考えています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年10月26日	評価機関 評価決定日	平成22年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点></p> <p>◇菜園の収穫で利用者と喜びを共有 事業所は閑静な住宅地の中にあり、敷地内にある菜園でナスや胡瓜などの野菜を育て、食材にも利用して利用者と収穫の喜びを共有している。</p> <p>◇豊かな空間スペースと一人で過ごせるスペース 共有スペースであるリビングは応接セット、食卓テーブルが3セット設置して、利用者同士がゆったり、あるいは一人ひとりが自分のペースで過ごせる場所を提供している。</p> <p><事業所の工夫点></p> <p>◇運営推進会議の効果的な活用 運営推進会議に消防署職員が出席し、夜間の防災について説明している。議題に応じた専門家の参加は、説明に説得力があり効果的な防災訓練に結びついている。</p> <p>◇職員の意見を事業所の運営に反映 管理者は会議や申し送り、職員の意見を積極的に聞き会議で検討して運営に反映している。玄関前の敷地を利用した「夕涼み」の行事はその例であり、地域住民も参加し好評を博している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ横浜いずみ
ユニット名	あやめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り等にて確認し理念に基づくケアを実践している。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に「笑顔が毎日見られる安心と自宅で過ごすような安らぎを大切に」を掲げている。 ・職員にはケア会議や申し送りで、理念を確認し実践に繋げている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃、近所の方には挨拶を欠かさないように努め、自治会への加入、地域の防災訓練や盆踊り、運動会に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入している。地域の人とは、行事に参加して交流するほか、散歩や外出の折、挨拶を交わしている。 ・「夕涼み会」を事業所内で行い、地域の人々も参加している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の夕涼み会を実施し、近所の方を招待して利用者との交流をはかり、認知症の周知及び理解して頂けるように支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は4回の開催。地域に密着し、利用者が地域の中で生活している実感を持てるように活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には泉区の担当課と、地域包括支援センターの職員、地域の住民が参加して、3か月ごとに開催している。 ・会議では事業所の運営状況を報告し、提案や助言に対してはその都度検討して対応している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉区の担当職員とは研修会の参加や依頼、運営推進会議、ボランティアの依頼などの相談、打合せを頻繁に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に出席した区の担当職員から情報提供があり、ケアサービスの相談にのってもらい協力関係を築いている。 ・事業所の研修会には、泉区の職員に参加を依頼して情報を得、意見交換をしている。 	

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1, 2Fの出入り口には防犯上の問題もあり施錠しているが、利用者の人権保護を最優先として、拘束しないケアを実践している。	・職員に身体拘束防止の研修を行い、拘束の禁止を徹底し、日常のケアでは拘束していない。 ・安全確保のため1階、2階の玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状、ユニットにて虐待と思われる事例は見当たらないが、ユニット会議、カンファレンスを通して、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通して、スタッフ全員に意識付けをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ケアに関する取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家族会や面会時に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意し、意見や要望はスタッフにも伝える。	・家族の代表が参加する運営推進会議と年2回開催する家族会を通じて、家族の意見や要望を聴いている。 ・要望や意見は職員会議で話し合い、内容に応じて運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やユニット会議時または連絡ノート等にて職員の意見や提案を聞き、実際の業務やケアに反映させている。	・管理者はユニット会議、連絡ノートを通じて職員の意見を聞いている。最近では、地域の人々も参加した「夕涼み会」開催の意見が出されて実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力が反映されるよう、給与アップや賞与等があり、またシフト作成の際一人一人が無理がないよう、配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット内にて計画的に研修を行っている。外部研修にはグループホーム連絡会の交換研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の泉・戸塚ブロックの研修会に参加。また地域の催し（盆踊りや防災訓練）にて、交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が望んで入居された利用者ばかりでないので、本人の話を傾聴し、様子観察するなかで、一日も早く環境に慣れていただき、なじみの関係になれるよう、心掛けている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は連絡を密にし、家族の不安を取り除くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活習慣や趣味、嗜好などを伺い、利用者本人、家族が要望されることに沿えるよう、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの暮らしのなかで、出来ることは協力していただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃より利用者の様子を家族に伝え、何か問題が生じた場合は、家族と協議し、その改善策に家族の意見を反映している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が友人との手紙や電話でのやり取りを継続できる様に支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、入居予定者の生活暦や友人、利用していた店舗などを把握し、関係の継続を支援している。 ・職場の元同僚が来訪する利用者もあり、面談する場所を確保している。 	

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方との席の配置に配慮したり、利用者同士でトラブルになりそうな雰囲気の際はさり気なくスタッフがなかに入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院し、結果退去となっても、家族に許可を得て、見舞いや面会に伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面接や、入居直後の様子などから本人の意向を確認し、出来る限り本人が望む暮らしが出来るよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、利用者との日常の関わりの中で信頼関係を築き、利用者の思いや意向の把握に努めている。 ・困難な場合は、利用者の態度や素振りなどで、思いや希望を把握し、スタッフ間で確認しあっている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や食器を持参して頂くようお願いし、ご本人の生活歴や居宅でのサービス提供の情報を収集し全体像を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を尊重しながら、一人一人の体力を考慮しつつ、運動を勧めたり、又は午睡を勧めたりして、一日の過ごし方に気を配っている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聞きスタッフ参加のケアカンファレンス等にて課題を分析し、よりよく暮らしていただけるよう、介護計画を作成している。	・介護計画は、利用者や家族の意向を確認し、ケアカンファレンスで検討して作成している。 ・介護計画の見直しは3か月毎に行い、利用者の状況が変化した場合は、都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事量、水分摂取量、排尿・排便状況など日々の生活の様子を記録しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車を利用して外出や外食、通院時の移送サービス等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に協力していただいている。地域の防災会に加入し、講習会、訓練に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時にホームの協力病院の説明をして、協力病院の往診か、家族対応での従来の病院にするかを確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。	・本人と家族の意向を尊重して、かかりつけ医か協力医の受診を選択してもらっている。 ・入所後、協力医に変更する場合は、家族の同意を得、利用者の身体状況を確認して行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の訪問看護師が、健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう医療機関と相談し、退院許可がでたら、直ちに受け入れられるようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある利用者に対して、家族、主治医と相談し、方針を全員で共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所では、重度化や終末期の対応に限界があることを入所時、家族に説明している。 ・利用者・家族や協力医の助言も得て、重度化した場合の方針を明確にし、可能な範囲で支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の要介護度が高くなり、ターミナルケアへの要望が増えている現状から、看取りの方針を明確にし、医療機関との連携した対応が期待されます。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習や防災訓練の際、消防署の方にAEDの指導を受ける予定があり、基礎的な対応はマニュアルにして緊急連絡網とともに整備している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して、避難の際、どこが問題になるかを把握し、また地域の防災訓練に参加し、協力体制を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に消防署の職員に説明に来てもらい、災害に対する意識の高揚を図っている。 ・避難訓練では何が問題かを把握し、問題意識を持った避難訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練に参加していますが、地域の方は事業所の訓練には参加していません。今後、地域との防災協定の締結を図ることで、地域との協力体制の構築が期待されます。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を目上の年長者として、常に尊敬の念を持って接し、言葉遣い、守秘義務に対しても十分に気をつけている。	・利用者の人格を尊重し、尊厳を損ねるよう、常に言葉かけや態度には留意している。 ・フロア内では個人情報に注意を払い、申し送りの名前はイニシャルを使って行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人にあった声掛けをし、自由に表現出来る雰囲気を作り、言葉や表情から本人の意向に沿った暮らしが出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の利用者のペースを尊重し、制止したり、無理に誘ったりしないよう、自由に暮らしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに応じた服装や髪型ができる様に支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやし等の根を取っていただいたり、下膳やテーブル拭きなどを手伝っていただいたりして、その際、感謝の言葉を述べて慰労している。	・職員は、利用者の隣りで、会話をしながら見守りや食事介助をしている。 ・週1回、スーパーのチラシを見ながら献立を決め、自分達の好みの食事を楽しんでいる。できる方は配膳や後片付けを行っている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューと食材は外部発注にて、カロリーコントロールをしている。また個人別に食事量、水分摂取量を記録することにより、体調の管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立されている方には声掛けし、介助が必要な方には、出来ることはしていただき、出来ないところを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、さり気なく誘導し失敗を減らすよう心掛けている。失禁時は混乱しないように配慮している。	・排泄チェック表から個別のパターンを把握し、一人ひとりの様子を見ながら声掛け誘導し、自立に向けて支援している。失敗した時もさりげなくトイレに誘導して、プライドを傷つけないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘がちな利用者は、主治医と相談し適切な処方をしていただくと同時に、水分補給や運動を促す。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	必要や希望に応じて、入浴が出来るようにしている。入浴時間は原則として午後になっている。	・利用者は週2回、午後に入浴している。希望があれば可能な限りいつでも入浴できる。入浴を好まない人にはタイミングをみて声掛けしている。車椅子の方にはリフト浴や2人体制で入浴を支援している。	

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、傾眠や疲れが見られるときは午睡を勧め、夜間眠れない方には話し相手になり、気分が落ち着く様になっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬はスタッフが管理し、服薬のタイミングを間違えないように支援している。薬の目的や副作用を理解している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来ることを把握し、日常的に場面作りをしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や玄関前のスペースでの外気浴や近所に散歩に出かけている。	・天気の良い日は、車椅子の方も一緒に近くの遊歩道を散歩したり、車で季節の花見などに出掛けている。 ・日用品の買い物で外出する人には、職員が同行している。年2回の遠足で遠出するのを楽しみにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	比較的介護度（認知度）の高い利用者が多く、基本的に、ユニットごとで管理している。別途金銭を所持して買い物を楽しまれる方もいらっしゃいます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は利用者にも開放し、自由に掛けられるようにしている。手紙を代読したり、また希望があれば代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な物品を使用し、カレンダーや時計は見やすい位置に置いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内は、掃除が行き届いている。リビングには応接セットの他3セットのテーブルを配置し、相性の良い組み合わせで楽しく過ごせるように配慮している。 ・居間には、利用者の作品や行事の写真を飾り、温かい雰囲気を出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓のほか、応接セットを置き、利用者の各居室にもそれぞれいすが置いてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれたものを持参していただけるように利用者本人や家族にお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはクローゼット、エアコンが備え付けられている。仏壇や使い慣れた馴染みの箆笥、ベッド、椅子を置いたり、家族の写真や書道の作品を飾り、居心地よく過ごせる部屋造りをしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング、トイレ、浴室、脱衣場には手すりが設置され、また浴室には重度化された利用者用にリフトが設置されている。		

事業所名	ミモザ横浜いずみ
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60 ・ 関	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り等にて確認し理念に基づくケアを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃、近所の方には挨拶を欠かさないように努め、自治会への加入、地域の防災訓練や盆踊り、運動会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の夕涼み会を実施し、近所の方を招待して利用者との交流をはかり、認知症の周知及び理解して頂けるように支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は4回の開催。地域に密着し、利用者が地域の中で生活している実感を持てるように活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	泉区の担当職員とは研修会の参加や依頼、運営推進会議、打合せを行っている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1, 2Fの出入り口には防犯上の問題もあり施錠しているが、利用者の人権保護を最優先として、拘束しないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることがないように注意を払い、防止に努めている	現状、ユニットにて虐待と思われる事例は見当たらないが、ユニット会議、カンファレンスを通して、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通して、スタッフ全員に意識付けをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ケアに関する取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家族会や面会時に何でも言って頂ける雰囲気づくりに留意し、意見や要望はスタッフにも伝えている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やユニット会議時または連絡ノート等にて職員の意見や提案を聞き、実際の業務やケアに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力が反映されるよう、給与アップや賞与等があり、またシフト作成の際一人一人が無理がないよう、配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット内にて計画的に研修を行っている。外部研修にはグループホーム連絡会の交換研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の泉・戸塚ブロックの研修会に参加。また地域の催し（盆踊りや防災訓練）にて、交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が望んで入居された利用者ばかりでないので、本人の話を傾聴し、様子観察するなかで、一日も早く環境に慣れただき、なじみの関係になれるよう、心掛けている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は連絡を密にし、家族の不安を取り除くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活習慣や趣味、嗜好などを伺い、利用者本人、家族が要望されることに沿えるよう、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの暮らしのなかで、出来ることは協力していただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃より利用者の様子を家族に伝え、何か問題が生じた場合は、家族と協議し、その改善策に家族の意見を反映している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が「〇〇さん、今どうしているかな」と尋ねてこられたら、その方との関係やどういう人かを聞いて関係継続を支援している。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方との席の配置に配慮したり、利用者同士でトラブルになりそうな雰囲気の際はさり気なくスタッフがなかに入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院し、結果退去となっても、家族に許可を得て、見舞いや面会に伺っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面接や、入居直後の様子などから本人の意向を確認し、出来る限り本人が望む暮らしが出来るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や食器を持参して頂くようお願いし、ご本人の生活歴や居宅でのサービス提供の情報を収集し全体像を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を尊重しながら、一人一人の体力を考慮しつつ、運動を勧めたり、又は午睡を勧めたりして、一日の過ごし方に気を配っている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聞きスタッフ参加のケアカンファレンス等にて課題を分析し、よりよく暮らしていただけるよう、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事量、水分摂取量、排尿・排便状況など日々の生活の様子を記録しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車を利用して外出や外食、通院時の移送サービス等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に協力していただいている。地域の防災会に加入し、講習会、訓練に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力病院の説明をして、協力病院の往診か、家族対応での従来の病院にするかを確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の訪問看護師が、健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう医療機関と相談し、退院許可がでたら、直ちに受け入れられるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある利用者に対して、家族、主治医と相談し、方針を全員で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習や防災訓練の際、消防署の方にAEDの指導を受ける予定があり。基礎的な対応はマニュアルにして緊急連絡網とともに整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して、避難の際、どこが問題になるかを把握し、また地域の防災訓練に参加し、協力体制を築いている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を目上の年長者として、常に尊敬の念を持って接し、言葉遣い、守秘義務に対しても十分に気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人にあった声掛けをし、自由に表現出来る雰囲気を作り、言葉や表情から本人の意向に沿った暮らしが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の利用者のペースを尊重し、制止したり、無理に誘ったりしないよう、自由に暮らしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに応じた服装や髪型ができる様に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根を取っていただいたり、下膳やテーブル拭きなどを手伝っていただいたりして、その際、感謝の言葉を述べて慰労している。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューと食材は外部発注にて、カロリーコントロールをしている。また個人別に食事量、水分摂取量を記録することにより、体調の管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立されている方には声掛けし、介助の必要な方には、出来ることはしていただき、出来ないところを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、さり気なく誘導し失敗を減らすよう心掛けている。失禁時は混乱しないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘がちな利用者は、主治医と相談し適切な処方をしていただくと同時に、水分補給や運動を促す。また朝食にヨーグルトを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	必要や希望に応じて、入浴が出来るようにしている。入浴時間は原則として午後に行っている。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、傾眠や疲れが見られるときは午睡を勧め、夜間眠れない方には話し相手になり、気分が落ち着く様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬はスタッフが管理し、服薬のタイミングを間違えないように支援している。薬の目的や副作用を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来ることを把握し、日常的に場面作りをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や玄関前のスペースでの外気浴や近所に散歩に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	比較的介護度（認知度）の高い利用者が多く、基本的に、ユニットごとで管理している。		

ミモザ横浜いずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は利用者にも開放し、自由に掛けられるようにしている。手紙を代読したり、また希望があれば代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な物品を使用し、カレンダーや時計は見やすい位置に置いている。食事時にBGMを流して、落ち着いた雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓のほか、応接セットを置き、利用者の各居室にもそれぞれいすが置いてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いたなくなったものを持参していただけるように利用者本人や家族にお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング、トイレ、浴室、脱衣場には手すりが設置され、また浴室には重度化された利用者用にリフトが設置されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ横浜いずみ

作成日

平成22年11月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	235	地域の方との連携を深める。	地域密着型施設としての本来の目的である、地域との連携、協力体制を構築する。	本年9月に実施した、地域の方を招待する「夕涼み会」のようなイベントを継続することや、地域の方に消防訓練に参加していただく。	1～2年
2	29	ボランティアが特定の団体（ナルク）に偏っているのでは	地元（地域）のボランティアさんにも声掛けして参加していただく。	地域の社協やケアプラザを窓口として地元（地域）のボランティアさんに要請する。	1年
3	33	重度化に対する方針を明確化する（ターミナルケア）	ターミナルケア（＝看取り）を含め、重度化されていく利用者に対する方針を明確化する。	法人としての考え方をまとめた上で、それに則り当ホームとしての方針を明確化する。	2～3年
4	49	外出、外食の頻度が低いのでは	2～3ヶ月に1回程度は外出、外食を実施する。	出勤シフト作成時にメリハリを付け、外出日を予定し、突発的な事由が発生しない場合は実施することとする。	6カ月
5					